

令和 4年度 ( 3年度決算分) 高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成		課(室)名	長寿福祉課
	施策	地域包括ケアシステムの構築		電話番号	087-839-2346
	基本事業	介護予防の推進		事業実施主体	市
	事務事業	介護予防推進等事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	65歳以上の高齢者に対し、介護予防教室やフレイル予防講座などを開催し、介護予防に取り組めるよう支援する。また、高齢者の身近な地域で、介護予防を推進するため、介護予防ボランティア「元気を広げる人」などを養成し、介護予防の取り組みを広げる。				
年度概要	高齢者の介護予防教室・講座、元気を広げる人の養成講座等				
重点取組事業	市長マニフェスト	3-	事務事業の類型	ソフト事業(法律による実施義務無)	


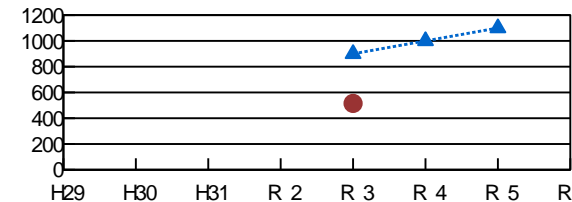

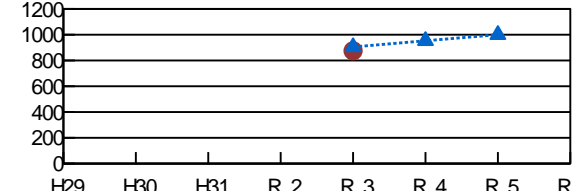
【事業の目的】

対象(何を)	一般介護予防事業対象者
意図(どのような状態にしたいか)	身近な場所で教室・講座などを開催し、高齢者が自主的に介護予防に取り組めるようになる。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H31	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 4
はつらつくらぶ参加者数	人			544	700	700

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H31	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 4
成果指標	「フレイル予防講座」参加者数	人	目標値			900	1,000	1,000
			実績値			515		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 高齢者の居場所や市政出前ふれあいトーク等でフレイル予防に関する講座を実施したが、目標値を下回る事となった。 (目標達成度) 					(達成度) 57.2%		
						20点		
成果指標	「元気を広げる人」養成講座修了者数(累積)	人	目標値			905	953	953
			実績値			875		
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 自主的に活動を行う介護予防ボランティアである「元気を広げる人」の養成講座を実施し、目標値を概ね達成することができた。 (目標達成度) 					(達成度) 96.7%		
						33点		

【コストの推移】

指標名	単位	平成 3年度(決算)	令和 2年度(決算)	令和 3年度(決算)	令和 4年度(予算)
トータルコスト	[円]	73,724	64,246	49,270	47,121
(事業費)	[円]	20,608	19,354	22,845	20,696
(職員人件費)	[円]	53,116	44,892	26,425	26,425

【評価】

評価ランク (A~D)	B	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者の活動が減少しているため、コロナ禍における介護予防活動の継続が課題である。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

居場所等へ出向く機会を活用し、介護予防の推進(フレイル予防)に取り組む。また、介護予防ボランティア「元気を広げる人」の養成・支援を継続して実施する。

令和 4年度 ( 3年度決算分 ) 高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成		課(室)名	長寿福祉課
	施策	地域包括ケアシステムの構築		電話番号	087-839-2346
	基本事業	介護予防の推進		事業実施主体	市
	事務事業	65歳からのプラチナ世代元気応援事業		事業期間	令和 3年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	地域支援事業にて実施している一般介護予防事業である「はつらつくらぶ」を修了した後、スポーツクラブ等へ移行し、3か月以上活動を継続した人を対象に、自力での健康維持を支援することを目的として、「元気支度応援金」を支給する。また、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、新しい生活様式に基づき、高齢者が自宅等で介護予防に取り組むことができる環境を作るため、スマートフォンの使い方教室やオンラインによる介護予防教室を開催し、総合的にオンライン介護予防の推進に取り組む。				
年度概要	介護予防教室「はつらつくらぶ」を修了した後、スポーツクラブ等へ移行し、3か月以上活動を継続した人を対象に、自力での健康維持の支援を目的とした「元気支度応援金」を支給する。また、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、新しい生活様式に基づき、高齢者が自宅等で介護予防に取り組むことができる環境を作るため、スマートフォンの使い方教室やオンラインによる介護予防教室を開催する。				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	3-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象(何を)	一般介護予防事業対象者
意図(どのような状態にしたいか)	高齢者が自主的に介護予防に取り組むことができるようになる。また、自宅にいても孤立することなく、介護予防に取り組むことができる。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H31	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 4
はつらつくらぶ参加者数	人			544	700	700
スマートフォン使い方教室の開催回数	回			70	60	60

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H31	R 2	R 3	R 4	中期目標 R 4
成果指標	元気支度応援金の支給を受けた者が介護認定を受けなかった割合	%	目標値				100	100
	実績値							
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 令和3年度の元気支度応援金は、令和4年2月～3月に支給したが、はつらつくらぶ修了の1年後を自途に実施予定の追跡調査が未実施であるため、達成度を測ることができない。	120	(目標達成度)					(達成度)
成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか) オンラインの介護予防に取り組んだ居場所数	か所	目標値			10	10	10
	実績値				4			
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) スマートフォン使い方教室を受講した居場所のうち、希望があった4か所で、オンライン介護予防教室を開催した。	25	(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成3年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(予算)
トータルコスト	[千円]			9,288	15,520
(事業費)	[千円]			1,738	7,970
(職員人件費)	[千円]			7,550	7,550

【評価】

評価ランク (A～D)	C	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

令和3年度新規事業

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

引き続き、自ら介護予防に取り組む高齢者が増加するよう、元気支度応援金の支給事業を積極的に周知する。また、居場所に対して、オンラインによる介護予防が促進されるよう、令和3年度の状況を踏まえて実施する。